

O's news



2018年1月1日発行

くも膜下出血にはご用心!!

脳神経外科 古家一 洋平

脳卒中とは、脳の血管が傷害されて起こる病気をさします。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの総称で、日本人の死亡率の第4位です。脳卒中は冬に起こりやすいことが知られており、特に注意が必要です。

そもそも脳卒中はなぜ冬に多いのでしょうか。冬は家や職場など暖房の整った暖かい場所から、寒い外へ出ることが多くなります。寒いところを出ると脳血管が収縮し、血圧が上昇するのです。そのため血圧が上昇し脳卒中を発症しやすくなるわけです。

今回は脳卒中、特にくも膜下出血についてその病態や治療、予防について紹介したいと思います。脳卒中は冬の発症が多いことは先に述べたとおりですが、くも膜下出血のみに関して言えば、最近では季節性がないとの報告もあります。しかし、年齢層によっては12月に多いとの報告もあり、やはり冬の発症に注意が必要な病態といえます。

そもそもくも膜下出血の原因としてはどのようなものがあるのでしょうか。血管奇形や、脳腫瘍、感染症など様々な原因が挙げられますが、最も一般的なものは脳動脈瘤とされています。脳動脈瘤は血管の壁の一部が薄くなり、風船のように膨らんだ状態を指します。未破裂の状態では普通症状はありませんが、万が一破裂するとくも膜下出血となり、場合によっては致命的となるわけです(一般的には1/3は死亡し、1/3は手術しても大きな後遺症を残すと言われています)。

症状としては突然発症の頭痛が一般的で、教科書的には「金属バットで殴られたような」と表現さ

れることもあります。出血の程度によっては嘔気・嘔吐や片麻痺、失語などの局所症状を呈することもあり、重症の場合は意識障害を呈することもあります。逆に出血量が少量のものでは、軽度な頭痛のみの場合もあります。治療は開頭クリッピング術や血管内治療としてのコイル塞栓術が挙げられますが、その後続発的に発症する脳血管攣縮や水頭症などにも注意が必要な病気です。

上記のように、発症すると重篤になりやすい病気であるため、早期発見・早期治療が大事であることは言うまでもありません。上記のような症状が出た場合はすぐに受診することをお勧めします。仮に脳動脈瘤が見つかった場合は、その大きさや形、年齢などを考慮し、未破裂の段階での手術加療をお勧めします。また、手術なしで経過観察の方針となった場合でも、定期的な画像検査や破裂のリスク因子の管理(血圧、喫煙、過度の飲酒などがリスク因子として挙げられています)をしていきます。

早期発見・早期治療のためには、まず動脈瘤の存在の有無を検査しておくべきでしょう。最近では脳ドックなどが普及し、未破裂動脈瘤が発見され、破裂前に治療を受けられる患者さんが増加しましたが、まだまだ普及率は充分とは言えない状態です。これを機に一度脳ドックの受診を検討されてみてはいかがでしょうか。



言語聴覚士って何をするの？

言語聴覚士 高原 千栄

話す、聞く、読み書き、食べる・・・といったことは、私たちが自分らしく生きていくうえで欠かせないことです。しかし、病気や事故、加齢などにより難しくなることがあります。私たち言語聴覚士は、ことばによるコミュニケーションや嚥下(飲み込み)に障害がある方々に専門的治療を提供し支援させて頂いています。

①コミュニケーション障害

◇失語症

- 上手く言葉で伝えられない
- 相手の言葉が理解できない

◇高次脳機能障害

- 注意障害…物事に集中できない、複数の事を同時に進められない
- 記憶障害…大事な約束を覚えられない、何度も同じ事を聞いてしまう

◇構音障害・音声障害

- 呂律がまわらない・声がかすれる

②摂食嚥下障害

- 食事中にむせる、嘔むのに時間がかかる
- 食後にガラガラ声になる・微熱が続く等



このような状況でお困りの方に、個々に適した内容や頻度を調整しながら検査、治療・訓練を実施しています。お困りの方はぜひご相談ください。

ことばによるコミュニケーションには言語、聴覚、発声・発音、認知などの各機能が関係していますが、病気や交通事故、発達上の問題などでこのような機能が損なわれることがあります。言語聴覚士はことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。また、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応します。

ことばによるコミュニケーションの問題は脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐に渡り、小児から高齢者まで幅広く現れます。言語聴覚士はこのような問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。

このような活動は医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士などの医療専門職、ケースワーカー・介護福祉士・介護支援専門員などの保健・福祉専門職、教師、心理専門職などと連携し、チームの一員として行います。

言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、コミュニケーションの面から豊かな生活が送れるよう、ことばや聴こえに問題をもつ方とご家族を支援します。

言語聴覚士は、ことばや聞こえ、認知、嚥下(えんげ/意味: 飲み込み)などに問題がある方々に対して、評価・訓練・指導などを行い、思いを伝えあって生きる喜びを持てるように専門的立場から支援する専門職。脳卒中などが原因で発生する失語症・聴覚障害・ことばの発達の遅れ・声や発音の障害に対し、検査によってその程度を判定し、医師の診断のもと、訓練のプランを作成します。そのうえで、発声のための筋力トレーニング、言葉を引き出すためのプリントやカードを使った訓練、ことばの発達が遅れている子どもへの言語発達促進援助や、言語指導などを行い、コミュニケーション能力の改善を図るのです。

また、食べ物をつまみ飲み込めない嚥下(えんげ)障害の訓練や、患者さんのハンディキャップを軽減するためのご家族に対する助言・指導なども、言語聴覚士の重要な仕事です。

総務課の仕事

総務課 小畑 弘美

皆さん、総務課ではどのような業務を行っているかご存知でしょうか？
直接患者さまと関わりを持つ機会の少ない総務課は仕事の役割が見えにくいかもしれません。

総務課内には「経理係」「用度・設備係」「人事係」の3つの係があります。

3つの係各々が病院内の全ての部署との関係を持ち、病院全体を見渡しています。

また、どの部署でも扱わないことは、総務課の仕事となるケースが多いかもしれません。

職場環境を整備することで、職員がより安全で快適に業務に取り組み、患者さまにより質の高い医療を提供させて頂くこと、そして病院内の各部署と経営陣との架け橋になることが私たちの役割であると思っています。

これらの業務遂行のため職員とのコミュニケーションを欠かすことはできません。職員が日々の業務の中で気づいたこと、改善につながる意見や相談の窓口となり、3つの係が力を合わせて職員がより快適に業務に取り組み、その結果、患者さまにより質の高い医療を提供できるように努めてまいります。



1

日本の四季暦

「二十四節気と七十二候」のお話

ガーデンQoo
秋吉 美穂子むつき
睦月

新春を迎え、親類や友人同志が互いに仲睦まじくする「睦月」です。

とうじ
冬至

二十二節気

12/31~1/4(六十六候) 雪下麦出 / ゆきわたりてむぎいずる

新しい年の始まり、雪の下では麦が芽びきます。お正月を祝う「お屠蘇」、数種類の漢方の生薬を漬けたものが原料の「屠蘇散」を日本酒とみりんに、7~8時間漬け込む「薬酒」です。

しょうかん
小寒

二十三節気

1/5~9(六十七候) 芹乃栄 / せりさかう

「せりが水辺で茂る」とありますが、実際川辺では2月頃からみられます。

1/7は七草粥、平安の頃はきび、小豆などの七種類の穀類だったそうです。地方により七草が揃わないのは珍しいことではなく「ご当地七草」で行っていました。現代は「春の七草セット」ですね。



1/10~14(六十八候) 水泉動 / しみずあたたかをふくむ

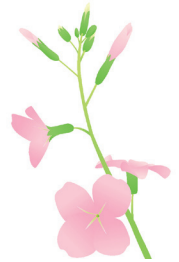
極寒の季節ですが、水中の泉が解け、動き始め、春への小さな足音です。

小正月に津々浦々で火の祭り「どんと焼き」「左義長」が行われます。正月飾りや書初めなどを燃やし、一年の無病息災を願い、「歳神様」を空へと送り出します。

1/15~19(六十九候) 雉始雉 / きじはじめてなく

雉の恋の季節、春の予兆です。

冬の花壇にピンクや紫の花を可憐に咲かせる「ストック」。名前の由来はスキーのストックのようにしっかりとした茎を持つことからです。八重咲き種は種をつけにくいので、花期が長く楽しめます。

たいかん
大寒

二十四節気

1/20~24(七十候) 款冬華 / ふきのとうはなさく

ふきのとうの芽が雪の中にそっと顔を出します。

寒仕込みの味噌の季節、「冬は新物の米と大豆が獲れ品質が良いこと」、「寒の水」と呼ばれる低めの温度の水、「麴による発酵がじっくりと始まること」によりおいしい味噌に♪



1/25~29(七十一候) 水沢腹堅 / みずさわあつくかたし

一年で最も寒いこの時季、流れるよりも氷が厚く張りつめます。

「北斗七星」や「冬の大三角形」が冬の夜空に冴えざえと瞬きます。街路樹はイルミネーションが輝きます。もうすぐ立春♪季節は少しずつ動いています。



その名の通り「大寒」ですが、日差しも少しづつ強まり、梅の便りも。

今月の花

センリョウ、マンリョウ

「センリョウ」

センリョウ科 常緑低木
原産地: 日本、中国、インド
花言葉: 「富貴」「裕福」

「マンリョウ」

ヤブコウジ科 常緑低木
原産地: 日本、中国、インド
花言葉: 「寿ぎ」「財産」

古くから日本人に親しまれ、「縁起植物」としてお正月に欠かせません。

つややかな赤い実と葉で冬の庭に彩りを添えてくれています。「センリョウ(千両)」は、葉の上に実が付くのに対し、「マンリョウ(万両)」は千両よりも大きめで多くの実を葉の下に付けます。その名と花言葉の通り、お金にまつわるイメージですね。ちなみに「ヒャクリョウ(百両、唐橘)」「ジュウリョウ(十両、薺コウジ)」「イチリョウ(一両、蟻ドウシ)」などがあります。どちらの種類も「明るい日陰」で育てましょう。



Ohnishi Neurological Center

外来担当医表

		月	火	水	木	金
1診	午前	大西	大西(宏)	久我	林	兒玉
	午後	—	大西(宏)	久我	林	兒玉
2診	午前	高橋	津田	角田	埴本	—
	午後	高橋	津田	角田	—	—
3診	午前	担当医	佐藤	担当医	富士井	担当医
	午後	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
5診	午前	津田	金光	津田	津田	古家一
	午後	津田	金光	津田	津田	西岡
6診	午前	脳血管内治療外来 高橋	—	脳血管内治療外来 大西(宏)/高橋	—	脳血管内治療外来 大西(宏)
	午後	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 山本	脊椎・脊髄外来 林	脊椎・脊髄外来 山本
7診	午前	神経内科 立花	奇数月第4火曜日	—	内科 竈門(カマド)	神経内科 上田
	午後	—	てんかん 丸山	—	内科 竈門(カマド)	<13:00~> 麻酔科 鈴木

※診察受付時間:月~金 <午前>8:30~11:30 <午後>13:30~16:30 (H30.1)

連携協力医療機関のご紹介(No.142)

やす整形外科クリニック

院長:大西 康央

【認定資格】医学博士・日本整形外科学会専門医・日本整形外科学会認定リハビリテーション医・日本体育協会公認スポーツドクター・日本オリンピック協会強化スタッフ・日本整形外科学会認定リウマチ医・日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医・アンチエイジング専門医・兵庫県サッカー協会医事委員・デウソン神戸チームドクター

【診療科目】整形外科・スポーツ医学・スポーツ外傷・障害・関節外科・関節鏡視下手術・骨粗鬆症・リウマチ

【住 所】兵庫県明石市和坂12-16

【電 話】078-924-4455

大西院長からのメッセージ

H29年10月、西明石駅前北にやす整形外科クリニックを開院いたしました。リハビリ専用フロアを設け、理学療法士によるリハビリテーションに力を入れております。肩こり、腰痛、膝痛などでお困りの方も是非ご利用ください。

西明石初のスポーツ専門医によるスポーツクリニックも併設しており、アスリートから、趣味でスポーツをされる方、クラブ活動で頑張っている学生の方までケガの予防、治療、アフターケアまでしっかり対応させて頂いており多くの方にご利用頂いております。(エコーを導入しており、その場で簡便に診断が可能です)

骨粗鬆症は、最新の検査機器を導入しており、腰、足のつけねの大腿骨頸部の骨密度をしっかりと測定して治療いたします。

またリウマチ疾患に関しても、しっかり診断しエビデンスのある治療をさせて頂いております。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	○	○	○	○	▲	○	/
14:00~16:00(予約診療)	○	/	○	○	▲	/	/
17:00~20:00	○	○	○	○	○	/	/

※休診日:第2・4金曜日、土曜午後、日曜



連携協力医療機関のご紹介(No.143)

木下内科クリニック

院長:木下 雅博

【認定資格】日医認定産業医・身体障害者福祉法規定医・認知症対応医療機関・肝炎治療医療費助成申請に係る診断書を記載する医師

【診療科目】内科・消化器科

【住 所】兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬字一の谷308-1

【電 話】078-974-3848

木下院長からのメッセージ

丁寧な診療を心掛けています。

禁煙外来もあります。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前(9:00~12:00)	○	○	○	○	/	○	/
午後(16:30~19:00)	/	○	○	○	○	/	/

※休診日:日曜、祝日



〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島1661-1

TEL:078-938-1238/FAX:078-938-1236 mail info@onc.akashi.hyogo.jp <http://www.onc.akashi.hyogo.jp/>

地域医療連携室 TEL:078-938-1288/FAX:078-938-0399

発行責任者:院長 大西 英之 編集責任者:事務次長 瀧原 健司

